

# 「<sup>お</sup>上山<sup>ろ</sup>城」からのたより 春・第189号

## 刀が語る薩摩藩邸焼き討ち事件

(公財) 上山城郷土資料館学芸員 長南伸治

幕末期の重大事件の一つに、慶応三年十二月二十五日発生の江戸薩摩藩邸焼き討ち事件があります。

この事件は、当時、江戸の薩摩藩邸に潜み、同藩士西郷隆盛の指揮の下、市中で旧幕府への挑発活動(放火・強盗など)を行っていた浪士について、その引き渡しを求め出動した庄内藩をはじめとする旧幕府側諸藩と、同藩邸浪士との間で武力衝突に発展した事件です。上山藩も旧幕府側の一員として出動し、当時の藩の中心的存在だった金子与三郎が重傷を負う(後日落命)など、多数の死傷者を出す事態に見舞われています。

さて、そのときの戦闘の凄まじさを物語る品が近年上山城に収蔵さ

れました。それは上山藩士天野助作が同事件出動時に帯びていた刀「銘 越前住 河内大塚藤原義植」(個人寄贈・上山城保管)です。

その刀は鞘に穴が空き、さらに、納刀時、その鞘の穴部分にあたる刀身は少し凹んだ状態となつています。この鞘の穴と刀身の凹みは、薩摩藩邸浪士が放った弾丸が直撃し生じたものとされています。

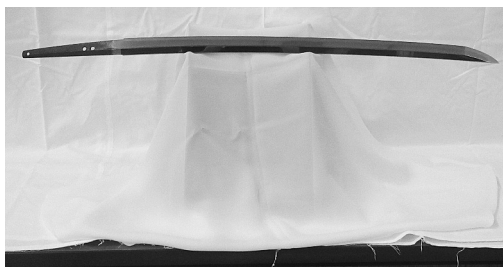
天野助作は同事件から無事に生還できたものの、ほんのわずかな「差」(僅

か数センチの刀の幅)が戦場での生死を別つ大きな「差」となつていたことを、この刀は時を越えて我々に見せつけているといえるでしょう。

この天野助作の刀は、今月二十日から開催の企画展「上山城刀剣展」でお披露目いたします。

また、来月二十五日には神田外語大学教授 授町田明広氏を招き薩摩藩邸焼き討ち事件に関する講演会も開催します。

企画展、講演会共々、みなさまのご来場を心よりお待ちしております。



【画像】薩摩藩邸焼き討ち事件の際、上山藩士天野助作が帯びていたとされる刀

【常設展示室から】抽選で景品が当たる、グッズ上山城探検、を毎月実施中。グッズを解きつつ、ご見学をお楽しみください。